

人権啓発センター だより

平成28年10月

No.34



雑 感

毎日、様々な人権相談を受けてはいるが、一口に人権相談と言っても、相談者の悩みは様々である。

相談者が何に困ってどうしてほしいと思っているのかは、相談者の話をよく聞かなければ分からない。

相手の話をじっくり聞くこと、心から話に耳を傾けることを「傾聴」と言うが、この「傾聴」が非常に難しい。

聴き上手になるための手法として、「相づちを

打つ」、「同じ言葉を繰り返す」、「口を閉ざす」、「考えを押しつけない」などの手法を習ったが、相談中、こちらから一方的に話していることに気付くことがある。

毎日、風呂に浸かりながら、「今日の相談者は、私の回答に本当に満足してくれただろうか。」と自問自答することが続く。

毎日が勉強の日々である。

(高知地方法務局人権擁護課長 青木)

人権あれこれ



国際交流の先駆け～高知市出身の森小弁～

高知市内の小学校に勤務していた2008年、ミクロネシア連邦のエマニエル・モリ大統領（当時）を学校にお迎えしたことがある。

モリ大統領は日本で最初にミクロネシアに移住した高知市出身の森小弁（こべん）（1869～1945年）のひ孫にあたる。

森小弁は戦前の人気漫画『冒険ダン吉』のモデルと言われ、貿易で得た利益で学校や病院を島に建てるなどの民生の向上につくし、島民から慕われた。

モリ大統領は先祖の墓参りで来日し、学校にある郷土資料室の森小弁コーナーを見学された。

その時、モリ大統領は子どもたちを激励した。「しっかり勉強して将来日本のリーダーになり、ぜひミクロネシアに来てください」と。



(モリ前大統領学校訪問時)

(研修講師 川崎)

じんけんライブラリー

一押し本

『手のひらから広がる未来 ヘレンケラーになった女子大生』

荒 美有紀（あら みゆき）／著 朝日新聞出版（1,200円＋税）

16歳のときに「神経線維腫症2型」という身体中の神経に腫瘍ができてしまう難病を発症し、見えない、聞こえない世界に生きている。視力も聴力も失ったけれど助けてくれる仲間と素敵な人たちとの出会いによって、泣いてばかりいた著者は、一步を踏み出し大学にも復学した。悩み葛藤する日々の中「自分にも役割がある」「人の役に立ちたい」とどうやって思えるようになったのか、壮絶な魂の軌跡です。「障害と幸せは関係ない」と頑張っている姿にすごく感動しました。

（企画啓発課 松本）



ちょっといい話

リオデジャネイロ・パラリンピックのウェルチェアーラグビーで高知市の池透暢選手が銅メダルを獲得した。

本県で4人目のパラリンピックメダリストだが、車いすを操りながらパスする技術など、自分ではとても追いつかないと思う。

障がい者のスポーツでは、競技用の道具の進歩で競技能力が向上していて、跳躍や短距離走など一定の競技では、健常者の記録を超える可能性もあるそうだ。

道具の進歩によって競技力が高まるのは、抵抗の少ない水着など、スポーツの

世界はよくあることで、道具を平等に使えるのだったら、使う能力で差がでることになる。

すると競技用の道具の開発は、将来、健常者も障がい者もともに同じ道具で、平等に能力を競う競技をもたらすかもしれない。

技術の進歩は、オリンピック、パラリンピックという区別もなくして、最速、最強を健常者も障がい者もともに平等に競うスポーツの世界を実現させるかもしれないと思った。

（理事長 西尾）



事業報告

高知ユナイテッドSC人権サッカー教室を開催しました

今年度も、高知ユナイテッドSCと連携・協力して小学生を対象にした「人権サッカー教室」を開催しています。

グラウンドには、横断幕「考えよう相手の気持ち育てよう思いやりの心」及び「子どもの人権 110 番」を掲出し、のぼり旗も設置した中、今年度からは新たに、じんけん〇×クイズも実施し人権について楽しく学ぶことができました。また、高知ユナイテッドSC選手からは思いやりや感謝の気持ちを大切にすることなど、人権についてのスピーチもあり、子どもたちにサッカーを通して人権の大切さを実感してもらうことができました。

●日時：平成 28 年 8 月 7 日（日）

13:00～

・場所：高知市セントラルフットサルパーク

（高知市北久保 19-20）

・参加人数：47 名

●日時：平成 28 年 8 月 24 日（水）

17:00～

・場所：高知市長浜公園グラウンド

（高知市長浜 5618-1）

・参加人数：37 名



●日時：平成 28 年 8 月 25 日（木）

15:00～

・場所：宿毛市総合運動公園 陸上競技場

（宿毛市山奈町芳奈 4024）

・参加人数：36 名



【参加者アンケートより】

- ◎思いやりなどが必要ということが分かった。
- ◎とても勉強になった。すごく楽しかった。
- ◎みんなとの交流が大切だと思った。
- ◎相手を思ってパスをするということが分かった。
- ◎友だちを大切にしようと思いました。
- ◎仲間の思いやりやチームプレイがとてもよかった。
- ◎みんなで人権が学べたのでよかった。
- ◎もっとチームプレイを良くしていきたい。

（企画啓発課 佐伯）

Information お知らせ



平成28年度人権啓発研修 ハートフルセミナーの紹介

講演会：「ふしぎな部落問題」

in 室戸

●講師：角岡 伸彦さん

1963年、兵庫県加古川市生まれ。関西学院大学社会学部を卒業後、神戸新聞へ入社。記者として勤務後、フリーになり、現在はノンフィクションライター。大阪市在住。

今年6月に最新刊『ふしぎな部落問題』（ちくま新書）を出版。

●日時：10月23日（日）

午前10時～11時45分（開場：9時30分）

●会場：室戸市役所2階 第1会議室

（室戸市浮津25-1）

同和問題は、人間として幸せに生きる権利や自由（居住及び移転の自由、職業選択の自由、教育の機会均等を保障される権利、結婚の自由など）を、そこに生まれたというただそれだけの理由（本人には責任のないこと）によって侵害され、社会的不利益を受けてきた問題です。

高知県では、同和問題の解決に向けた取組を通して、人権尊重の意識が確立されるよう、様々な教育・啓発事業を実施し、正しい知識の普及・啓発に努めています。



お問い合わせ：室戸市役所人権啓発課 TEL0887-22-5115

「気づけば高まる人権意識

～講演＋落語＝笑いの中の学び～

in 赤岡



●日時：11月6日（日）

午後2時～3時

●会場：香南市立赤岡小学校 体育館

●講師：落語家 桂 七福（かつら しちふく）

お問い合わせ：香南市立赤岡小学校

TEL0887-55-3105

※両日とも入場無料・当日のご参加お待ちしております。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>